

1. 日 時 平成 29 年 2 月 15 日 (水) 19 時～
2. 場 所 高知県庁 2 階 第二応接室
3. 出席者 部会員 10 名、事務局 3 名

【議事概要】

(1) 胃がん検診及び大腸がん検診の実績等について

○平成 27 年度 胃がん大腸がん検診 (市町村検診) 実績について (資料 1)

- ・市町村が実施するがん検診の、受診者数、精検者数、精検結果等について報告。
- ・胃がん・大腸がん共に、精度管理指標である「要精検率」「精検受診率」「がん発見率」「陽性反応的中度」は国の許容値を満たしている事報告。

＜胃がん検診＞P1～5

受診率が 9.8% から 6.6% に大幅に減少した理由は、分母となる対象者数の考え方が 27 年度から変更となり、これまで対象者に含めていなかった職域で受診できる人も対象者に含めたためであること説明。

＜大腸がん検診＞P6～10

受診率が 15.4% から 11.2% に大幅に減少した理由は、胃がん検診と同理由であること説明。委員から、P7 の発見がん「深達度別分布」及び「stage 別分布」の不明が多いことについて、質問が出た。次回までに確認することとする。

○平成 27 年度 県全体の胃がん大腸がん検診の実施状況調査結果について (資料 2)

- ・資料 1 の実績数に加え、職場で実施される検診等 (以下、職域検診という) を含めた県全体の受診率について報告。県内の主な医療機関に報告を依頼し、胃がんは 28 機関、大腸がんは 29 機関から報告をいただく。

＜胃がん検診＞P2～4

- ・2 ページの①～③の表

職域検診の報告依頼項目は、受診者数・要精検者数・精検受診者数・精検結果の 4 項目であるが、情報提供可能な範囲での報告でかまわないこととしていることから、4 項目全ての報告をいただいた機関と、一部の情報のみ報告をいただいた機関の情報をそのまま合算すると、精度管理状況が比較できないことから、4 項目全て報告いただいた 17 機関分の実績と市町村検診の実績を合算した表①と、2 項目 (受診者数・要精検者数) の報告をいただいた 9 機関分に①の表を合算した②の表、受診者数のみ報告いただいた 2 機関分に②の表を合算した③の表に分けて分析したこと報告。

- ・2 ページ下段の表 (40 歳以上の集計の年次変化を掲載)

胃がん検診受診者数は、26 年度より 1902 名の増。がん発見数は、26 年度より 13 名増の 96 名。

- ・4 ページは、検診方法別 (X 線・胃カメラ) の受診状況等の集計結果。

＜大腸がん検診＞P5～6

- ・5 ページの表の構成は、胃がん検診と同様であること説明。

- ・5 ページ下段の表は「40 歳以上の集計結果の年次変化」を掲載。

大腸がん検診の受診者数は、26 年度より 5,844 名増の、139,287 人。

がん発見数は、26 年度より 42 名増の 186 名。

○平成 28 年度 各種検診の検診費用徴収額調べについて (資料 3)

- ・市町村検診時に住民から徴収する自己負担額について報告。

表ページは自己負担額が安い順に並べた表であること、裏ページは市町村順に並べた表であ

ること説明。

- ・胃がんは、表の左端、大腸がんは左から3つ目の表に表記。
グレーで着色している箇所が、27年度と変更のあった箇所であること説明。

(2) 胃がん大腸がん検診精度管理調査結果について (資料4)

- ・市町村及び医療機関に調査を実施した精度管理状況について結果を報告。

(3) その他

○郵送での大腸がん検診の実施状況について (資料5)

- ・26年度から開始した、冬期限定の郵送回収の実施状況について報告。
- ・28年度の提出率が66.6%と昨年度より大幅に低いが、2月9日現在の状況であり、回収期限の2月28日まで待てば、回収率は高くなるはずであると説明。
(26年度についても同様の状態であったこと説明)

○地域がん登録の登録状況について (資料6)

- ・地域がん登録の2012年の全国状況を追加した資料を配布。
- ・高知県の状況は本来2013年の状況を報告する時期ではあるが、全国がん登録システムへデータ移行中であり、正確な統計がまだ出ていないことから、今回は報告しない事を説明。